

## ロケット開発を行う宇宙スタートアップ企業 インターステラテクノロジズ、 北海道大樹町にて、本社・新工場の竣工のお知らせ

観測ロケットMOMOの量産化、超小型衛星打上げロケットZEROの組立・製造に向けて



インターステラテクノロジズ株式会社（本社：北海道広尾郡大樹町 代表取締役社長：稲川貴大、以下インターステラテクノロジズ）は、「誰もが宇宙に手が届く未来をつくる」ことをミッションとする、ロケット開発スタートアップです。インターステラテクノロジズは、ミッションの実現に向けてロケット開発を推進させるため、北海道大樹町に本社および工場を新たに建設いたしました。

### 本社（事務所棟）・新工場（組立棟）完成、ロケット開発をさらに加速

インターステラテクノロジズの本社（事務所棟、写真左）は、995㎡の延床面積に、1階は工場機能を持ち、ZERO・MOMOの機体部品の組立、計測、保管を行う他、ロケットに載せるペイロード（荷物）のお客様が使用するペイロード室も完備しております。2階はZEROの開発、製造、運用を見据えて、100人規模の収容人数を持つ本社事務所となります。（現在、社員は50名）

新工場（組立棟、写真右）は、MOMOの数機同時の組立てやZEROの組立を行う「組立エリア」、MOMOやZEROの推進剤を収容するタンクを製造する「溶接エリア」として使用します。

これからも、ロケット開発を推進し、世界一低価格で便利なロケットをつくることで、誰もが宇宙にアクセスできる社会を実現させるべく、従業員一同丸となって邁進して参りますので、今後も皆さまのご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

## 新社屋・新工場 概要

- 本社（事務所棟）
  - ・ 竣工日 : 2020年11月30日（月）
  - ・ 住所 : 〒089-2113 北海道広尾郡大樹町字芽武149-7
  - ・ 建築面積 : 523.73㎡
  - ・ 延床面積 : 995.00㎡
  - ・ 建築 : 鉄骨造
  - ・ 工期 : 2020年6月22日～2020年11月30日
- 新工場（組立棟）
  - ・ 竣工日 : 2020年12月18日（金）
  - ・ 住所 : 〒089-2113 北海道広尾郡大樹町字芽武149-6
  - ・ 建築面積 : 809.92㎡
  - ・ 建築 : 鉄骨造
  - ・ 工期 : 2020年8月10日～2020年12月18日
- 共通
  - ・ 建築主 : インターステラテクノロジズ株式会社
  - ・ 設計/施工 : 萩原建設工業株式会社

## 施設紹介



### 推進部屋

エンジンやターボポンプの組立・試験、部品の検査



### 電気部屋

電子装置の組立・試験、部品の検査



### 工場見学にも対応

廊下には見学窓があり、工場内やエンジニアの作業風景を見学できる



### ペイロード室

ロケットに載せるペイロード（荷物）のお客様が組立・打上げ前準備で使用する部屋



## 事務室

社員がデスクワークや打ち合わせを行うオフィスエリア。フラットでオープンな作りでコミュニケーションがしやすい空間としました。100名収容可能です（現在社員は50名）。フリースペースやスタンディングスペースも作り、気分転換をしながら仕事ができるようになっています。



## 応接室

お客様とお打ち合わせをする応接室。インターステラテクノロジズの特徴は「なんでも自分たちでつくる」精神。ロケットの頭からおしりまで。さらには試験・打上げ設備まで。ここではなつのロケット団（前身の団体）、インターステラテクノロジズが開発製造し、実際に使われたロケットや設備の一部を展示。ものづくりの熱量、ロケットづくりの面白さをこの空間に詰め込んでいます。



## 新工場（組立棟）

MOMOの数機同時の組立てやZEROの組立を行う「組立エリア」、MOMOやZEROの推進剤を収容するタンクを製造する「溶接エリア」として使用します。

インターステラテクノロジズは、「誰もが宇宙に手が届く未来をつくる」を目指して、「世界一低価格で、便利なロケット」をつくります。観測ロケット「MOMO」と超小型人工衛星を宇宙空間に運搬する軌道投入ロケット「ZERO」を独自開発。2019年5月4日（土）、北海道大樹町で観測ロケット「宇宙品質にシフト MOMO3号機」を打上げ、民間企業が単独で開発製造したロケットとして国内で初めて宇宙空間に到達。民間で姿勢制御機能を持つ液体燃料ロケットとしては世界で4番目の宇宙到達を達成。2020年、第4回宇宙開発利用大賞「内閣府特命担当大臣（宇宙政策）賞」を受賞。